

第310回くらしの植物苑観察会 令和7年1月25日(土)

「くらしの中に息づく植物—野菜の歴史—」

天野 誠 氏 千葉県立中央博物館 上席研究員

現在、日本で食べられている野菜のほとんどが海外原産である。古い時代には今ほど野菜の種類は多くなかった。料理法も漬け物・煮物からサラダに変わり、生食するサラダ用の野菜の需要が増えた。今回は、主な野菜の原産地、伝来した時代、普及した時代、品種の変遷などを紹介する。

もっとも古い野菜は、文献記録が残される奈良時代以前に伝来している。ダイコン、カブ、ナス、ウリ、ネギ、サトイモなどである。ダイコンは、「おおね」の名前で平安時代は呼ばれていた。江戸時代に各地で品種が分化し、丸くて大きい桜島大根や細くて長い守口大根など他国に類を見ない多様性がある。料理法も品種によって異なっていた。現在は、種苗会社が品種改良した青首大根が主流である。カブは江戸時代に各地で品種が分化し、救荒植物としても栽培された。甘酢漬けにして地方特産品として販売される^{あつみかぶ}温海蕪など、焼き畑で栽培される品種も知られている。大蕪、中蕪、小蕪があるが、現在では小蕪が一般的に栽培されている。ウリは、甘みのあり生食するマクワウリともっぱら漬け物にするシロウリがある。いずれも古くから栽培されているが、甘いウリは真桑村のものが良質なものとして有名であり、マクワウリの名前が広まった。メロンは同種であるが、西洋に広まり、明治時代になって、温室栽培の高級品として、扱われた。現在では、ハウスメロンが手頃な値段で売られている。サトイモは腐りやすいので、遺物としては発掘されていないが、非常に古くから栽培されていたと考えられている。現在でも正月の雑煮の主要な具材として、行事食に用いられている。親芋を食べる八つ頭を人の頭に立つという縁起を担いで食べる地方もある。

平安時代初期の百科事典的文献に初出する野菜には、カラシナ、ナガイモ、キュウリ、ニンニクなどが知られている。カラシナは、種子を香辛料とする実がらしと葉を漬け物などにする葉がらしに分けられる。九州各地に栽培される高菜は、葉がらしに含まれる。中国の前菜とされるザアサイは、高菜の瘤の漬け物である。キュウリは伝来後あまり重要視されず、江戸時代になって栽培が盛んになった。以前は漬け物として消費されていたが、今では生食されるようになった。

江戸時代初期の百科事典的文献に初出する野菜には、ニンジン、ホウレンソウ、二ホンカボチャ、サツマイモ、ジャガイモなどが知られている。ニンジンには東洋系の品種と西洋系の品種があり、江戸時代に伝来したのは、前者で代表的な品種

に金時人参がある。後者は明治時代に導入され、現在売られている大部分を占める。ホウレンソウは、種子に刺があり、根元が赤く葉の切れ込んだ東洋系の品種と、種子に刺がなく、根元が赤くない、葉の切れ込みが浅い西洋系の品種がある。現在栽培されているのは、西洋系の品種である。サツマイモは最初沖縄に伝来し、^{ばんしょ} 蛮薯 と呼ばれ、薩摩に導入された。その後、救荒作物として各地に導入され、薩摩芋と呼ばれるようになった。品種改良によってでんぷん質が多く、豊産の沖縄100号や黄金千貫、甘みの強い紅はるかや紅あずまが作られた。

江戸時代に長崎に伝来した野菜には、キャベツ、セロリ、アスパラガス、トマト、オランダイチゴなどがある。いずれも明治初期に欧米から本格的に品種が導入され栽培が盛んになった。キャベツは結球しないものが最初導入され、末期に玉菜と呼ばれる結球性の品種が伝来した。キャベツの名前が広がったのは、第二次世界大戦後で、それまでは^{かんらん} 甘藍 と漢字書きされていた。食用部分が異なるが、カリフラワー、ブロッコリー、コールラビ、メキャベツは同種である。アスパラガスは、最初鑑賞用として栽培されていた。明治4年に開拓使が北海道に導入して、最初は軟白栽培してホワイト・アスパラガスとして缶詰加工されていたが、現在ではグリーン・アスパラガスとして栽培されるのが一般的である。トマトは唐なすびの名前で呼ばれ観賞用だった。明治初年に野菜として導入されたが、青臭さから普及しなかった。栽培が盛んになったのは、第二次世界大戦後で加工用にも栽培されるようになった。サラダの彩りになるミニトマトが本格的に栽培されるようになったのは、平成時代になってからである。

明治時代半ばにハクサイは中国から導入された。結球性のハクサイは、他のアブラナ類と容易に交雑し、結球性を保つことが難しかったので、中々定着しなかった。松島湾内の離島で、他のアブラナ類と隔離することで^{さいしゅ} 採種 が盛んになり、宮城県のハクサイ栽培が定着した。漬け物としてのハクサイの需要が少なくなったため、現在ハクサイの栽培面積は減っている。

参考文献

「日本の野菜」 青葉 高（1993） 八坂書房

「品種改良の日本史」 鶴飼保雄・大澤 良（2013） 悠書館

.....

次回予告 第311回くらしの植物苑観察会

※次回のくらしの植物苑観察会の開催は、4月となります。

詳しくはホームページをご覧ください。